

特集

可能性と個性を伸ばす 特別支援教育の推進

市内の特別支援学校や特別支援学級においては、家庭や地域、社会教育施設等の協力のもと、特別な支援を要する幼児児童生徒一人一人のニーズや特性に応じ、個別の指導計画や教育支援計画を作成し、全校体制で、生活スキルや学力の定着を図る教育活動を行っています。

繰り返しの活動を通して

～新潟市立東特別支援学校(東区)～

新年度が始まってまもなく、小学部低学年の子どもたちは体育館に遊具を設置した「にこにこランド」の活動に取り組みます。子どもたちは、トランポリンやブランコ、大きな滑り台などの中からお気に入りの遊具で思い切り体を動かして遊びながら、職員や友達と楽しい時間を共有し、順番を待つなどのルールを学んでいきます。笑顔いっぱいの「にこにこランド」の活動は、元気な心と体を育み、子どもたちにとってその後のさまざまな学習につながる大切な経験になっています。



ふわふわエアトランポリンで、みんなで跳ぶよ。そ～れ!

また、中学部の生活単元学習では「ご飯を炊こう」の学習を行っています。JA新潟市さんから学校教育田をお借りし、田植えや稲刈りを体験したり稲が育つ様子を観察したりしながら、稲が育って実を結ぶ(お米ができる)ことを学習します。並行して校内では炊飯ジャーでご飯を炊く学習を進めます。お米の量り方や研ぎ方、水量の調節の仕方などを繰り返し練習します。はじめは分担したり協力したりしながら行いますが、3年間の繰り返しの学習でご飯炊きの全工程を一人のできるようになったりおにぎりをにぎれるようになったりする生徒が増えてきます。また、この学習の期間は自分たちで炊いたご飯やおにぎりを給食で食べます。自分で作った物を食べる経験を通して、家庭でも意欲的にご飯炊きや食事の準備などの家事に取り組む生徒がでできます。中には食べられなかったご飯やおにぎりを食べられるようになる生徒もいます。

「生活力」と「コミュニケーション力」アップを目指して

～新潟市立青山小学校(西区)～

青山小学校特別支援学級では、「生活力」を第一に考えています。電車やバスを利用して町を探検したり、スーパーマーケットで買い物をしたりするなど、地域で学ぶ活動を多く取り入れています。お金の支払いや時刻調べ、表示や看板の読み取りなど、教室で学習したことを実際の場面で実践することによって、学習が定着したり、興味が広がったりします。また、学年の異なる子どもたちが、6年生のリーダーを中心に自分たちで整列したりあいさつしたりすることで、仲間意識を育てることもできます。さらに、「どこへ行くの?」と停留所で地域の方との会話が始めたり、「かつお節はどこにありますか?」と店員さんに教えてもらったりして、人とのかかわりも学習できます。カレンダーに印をつけて、探検の日を楽しみにしながら学習を進めています。



講師の先生とあみだくじを楽しむ外国語活動

次は、「コミュニケーション力」です。昨年度から始まった外国語活動では、講師の先生をお迎えして英語の絵本、歌、ゲームなどを楽しんでいます。英語を覚えるための英語ではなく、表情や身振り、語感から様々な情報を読み取ったり表現したりします。乗り物絵本を使った学習では、あみだくじを取り入れました。「下!」「ダウン!」「右!」と子どもたちの指令のとおりテレビ画面の線が延びていくので、目が釘づけ。いつの間にか「アンビュランス!」と、救急車の単語を覚えた子もいました。今後も楽しい学習を開発していきたいと考えています。